

北区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
やんぐ★るーきーず		北保健センター			
事業目的	事業内容	活動指標	R2	R3	R4
北区のまちづくりビジョンである、「子育て層が孤立しない地域ぐるみの子育て支援を広げていく」という孤立予防の視点から、主に10代で出産した母親を中心に教室を実施する。今年度は対象を25歳まで出産した保護者と乳幼児と対象を広げ、グループにて育児支援を行い、つながりづくり・親の社会性の獲得・安定した子育てが行える基盤づくりをめざす。	年間4回 ○保護者同士、スタッフを交えた交流：季節行事や軽作業を実施しながらの交流 ○社会性獲得に向けた学習：ライフプランの立て方、子どもへの適切な接し方、健康づくりについて、家族計画について等 ○保健専門職による子育て相談	やんぐ★るーきーず参加者数 新規参加組数	延64人 9組	延38人 9組	延48人 12組
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
○	北区の妊娠届出数は全区の中で最多である。また、子育て世代の転入が多い。若年の母は、世代の差を感じ、子育て交流の場に参加しにくいとの声がある。悩みに寄り添う支援が必要で、孤立予防・虐待予防の視点からも妥当である。	◎	保健センターでは、府大との産学官連携人材育成等事業を活用し、若年の母の社会参加を促進するためのサポートをしてきた経過があり、現在も関西医科大学准教授の協力を得ている。	○	虐待につながるリスクが高くなりがちな若年層をターゲットにした子育て支援の取り組み。堺市では7区中2区のみ実施している。
④効率性		△	対象者には妊娠届出時の面接の中で事業紹介、産後は訪問、健診、乳児全戸訪問事業等でも若年の保護者へ個別に紹介できている。また対象者を対象とした類似事業はなく、助産師・保育士の最小限の予算(人件費)で、相談・交流ができている。しかし参加希望者は減少してきている。		
⑤自立発展性		総合評価			
○	昨今、日常的にソーシャル・ネット・ワーキングサービス(SNS)を利用する方が増加し、本事業の対象者である若い世代の保護者にもその傾向が著しい。このことから対象者は、行政支援だけでなく、多様なつながり、相談ツールを持つようになってきた。	○	参加者を個々にみると本事業への参加が孤立を解消、子育てや生活の見通しをもつ機会となり、子育て力の向上に寄与していると言えるが、参加者数の減少もあり、交流の深まりには至っていない。また、SNSの利用等により様々なつながりや相談ツールがあることから本事業の必要性について再考が求められる。		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	本事業の開始期よりも、若年妊娠や出産数の減少があることから、今年度は対象年齢を25歳に引き上げて開催した。また電子申請システムでの申し込みや北区Twitterでの発信なども試みたことでコロナ禍で大きく減少した参加者数も若干の増加を見た。直近の参加者にインタビューしたところ、SNS等により教室以外のつながりもあり本事業へのニーズは少ないことが分かった。一方、事業開始期の参加者へのインタビューでは、本事業での人のつながりは非常に良かった、楽しかったとの声があった。これらのことから本事業は事業開始期の目的を達成し一定の効果を得られたと考える。今後は10代での出産など引き続き支援が必要な方へは個別の支援を行なっていく。令和5年度は、事業を再編し子育ての孤立防止については、新たな対象者群への支援事業とする。新たな対象者とは、理想育児とのギャップにしんどさを抱える乳児後期の保護者や多胎妊娠・育児をする保護者を考える。				